

# 日本共産党埼玉県議団ほっとNEWS

NO. 52

2012年3月22日 日本共産党埼玉県議団

電話 048-824-3413

## 「県立小児医療センターの現在地での存続を」 春日部市・杉戸町議会で意見書採択

県立小児医療センター移転問題で、周辺地域で反対の声が広がっています。各地の議会では次々、存続を県に要望する意見書が採択されています。3月16日には春日部市議会と杉戸町議会で意見書がそれぞれ全会一致で採択されました。

### 現在の県立小児医療センターは現在地に存続を 春日部市議会の意見書

〔前略〕 現在県の東部北地域や中央地域に周産期医療機関も救急医療機関も整備されておらず、その役割を事実上担っているのが小児医療センターです。センターに搬送される児童数は年間7600人、新生児・未熟児は870人にのぼり、春日部では通院が1198人、入院が292人と県内3番目という多さです。

また、小児医療センターと密接な関わりを持つ、隣接の特別支援学校への入学のため、地方から転居している家庭も多くあります。移転先がさいたま新都心であるということは、周辺の渋滞が激しいことが予想され、車で通院を前提としている多くの難病患者や障がいのある子どもにとって命に関わる問題であり、救急搬送にも大きな支障をきたすことにもなります。

よって、新たな小児医療センターを建設する場合でも、現在の小児医療センターは現在地に存続することを要望します。」

### 県立小児医療センターの現在地での存続を求める意見書 杉戸町議会

〔前略〕 杉戸町では200名以上の患者が利用し、

### 埼玉県立小児医療センター施設整備基本計画が確認される。

3月21日、同センター施設整備検討委員会の第4回会議が開かれ、基本計画が確認されました。計画では現状での病床利用率と今後の少子化の影響を考慮に入れ、高機能以外の病床を削減し、周産期や救急医療などの高次医療を重点的に行うため、NICUやPICUなどを増床するとしています。また、限られた敷地内に大規模な緑地帯を設けることは困難であるとして、テラスやデッキ、中庭などに人工的な緑を用意するとしています。現在4階建ての特別支援学校を中層階(7,8階)に設置する方向も示されました。

平成21年度には120名もが入院して治療を受けています。車いすや酸素吸入、食事が飲み込めない状態の子どもを持つ家庭などは車での通院を余儀なくされ、通院の途上でもたびたび道路上に駐車して介護しなければならない状態に置かれている方もいます。小児医療センターを利用されている方からは『病院到着までもう少し時間がかかっていたら、呼吸が止まって子どもの命が助からなかったかもしれない』という声も上がっており、現在地での小児医療センターの存続は子どもを育てている方たちの切実な声となっています。(中略) こうした中、知事は定例県議会において『患者や家族の不安に応えるため、機能の一部を何らかの形で現在地に残す検討をする』との方針を発表していますが、県立小児医療センターは現在地で存続が実現できるよう強く要望します。」